

2026年8月実施入試（夏入試）

電気電子デジタル理工学専攻

博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース・融合工学コース 5年型）

修士課程教育プログラム

I. 試験区分・志望区分

従来の修士課程と同じ修士課程教育プログラムと、博士後期課程を連携した博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース・融合工学コース5年型）の試験区分を設ける。修士課程教育プログラムはさらに一般と留学生に区分する。合格者決定法はそれぞれの試験区分により異なる。

専攻	領域	志望区分	研究内容	連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
				融合工学コース	高度工学コース	
電気電子デジタル理工学専攻	デジタル・グリーン領域	1	電気情報システム論 (非線形システム、エネルギーシステム・モビリティ、制御応用・ロボット) 薄教授、グエン講師、持山助教	融合光・電子科学創成分野	光・電子理工学	任意の志望区分を選択可能
		2	時空間センシング (時空間信号処理、視聴覚環境理解、生体磁気計測、脳機能イメージング、量子磁気センサ、機械学習) 吉井教授、伊藤准教授、上田博助教			
		3	応用デジタル工学 (制御理論、最適化理論、サイバーフィジカルダイナミカルシステム) 蛭原教授†			
		4	知的回路設計 (電気電子回路、電気電磁回路、エネルギー回路、機械学習による回路設計、ネットワーク数理) 久門教授†			
		5	物理情報融合工学 (固体電子工学、光電子工学、光量子電子工学) 浅野教授†、吉田助教			
		6	光機能デバイス工学 (光電子材料、光応用工学、光物性工学) 船戸教授†、石井助教、松田助教†			
	電気・システム生体工学領域	7	自動制御工学 (制御工学、システム・制御理論、数値最適化手法、システム解析) 細江准教授	任意の志望区分を選択可能	任意の志望区分を選択可能	任意の志望区分を選択可能
		8	システム創成論 (システム理論の生体計測応用、波動イメージングと逆問題、生体システム信号処理、人体電波センシング) 阪本教授			
		9	超伝導工学 (超伝導体の電磁現象、超伝導マグネットの電磁特性、超伝導の医療応用、超伝導のエネルギー応用) 雨宮教授、曽我部准教授			
		10	電磁エネルギー工学 (電磁気学、マイクロ磁気学、電磁界解析、計算工学) 松尾教授、美船准教授、孔助教			

光・電子・量子領域	11	電波科学シミュレーション (電磁力学、プラズマ理工学、計算機シミュレーション、宇宙空間物理学) 海老原教授、謝講師	融合光・電子科学創成分野	光・電子理工学				
	12	宇宙電波工学 (宇宙電波工学、宇宙プラズマ理工学) 小嶋教授、栗田准教授、上田義助教						
	13	マイクロ波エネルギー伝送 (マイクロ波工学、無線電力伝送、マイクロ波応用工学) 篠原教授、三谷准教授						
	14	優しい地球環境を実現する先端電気機器工学 (電気機器、輸送機器、再生可能エネルギー、超伝導機器) 中村教授†、寺尾准教授†						
	15	極限電子機能工学 (超伝導・磁性物性、超伝導・磁性材料、超伝導デバイス工学、テラヘルツ分光) 米澤教授、掛谷准教授、池田助教				任意の志望区分を選択可能	任意の志望区分を選択可能	任意の志望区分を選択可能
	16	固体量子物性工学 (量子スピントロニクス、純スピン流デバイス物性、トポロジカル物性物理) 白石教授、プエブラ准教授、大島准教授						
	17	光量子情報工学 (光量子情報、ナノフォトニクス、光量子計測) 竹内教授、岡本准教授、向井助教						
	18	半導体物性工学 (半導体工学、電子材料、エネルギー変換素子、電子デバイス工学) 木本教授、金子准教授、三上助教						
	19	電子材料物性工学 (電子材料物性、プローブ顕微鏡、ナノエレクトロニクス、有機・バイオエレクトロニクス) 小林准教授						
	20	ナノプロセス工学 (ナノ構造における光物性、ナノ構造形成、新機能ナノフォトニックデバイス) デゾイザメーナカ教授、井上准教授						

†：特定教員

※願書提出時に、入学後に履修するコースを、修士課程教育プログラム（2年）、博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コースおよび融合工学コース5年）から選択すること。

II. 募集人員

修士課程教育プログラム（一般）・博士課程前後期連携教育プログラムあわせて合計 93 名（うち、博士課程前後期連携教育プログラムは 20 名以内）、修士課程教育プログラム（留学生）は若干名。

III. 出願資格

募集要項「Part A: II-i 出願資格」に記載の条件を満たす者。さらに、修士課程教育プログラム（留学生）への出願は、外国の国籍を持ち、在留資格「留学」を有する、又は入学時に「留学」を取得できる見込みであることも条件とする。

博士課程前後期連携教育プログラム志願者は、以上に加えて、「V.(2) 試験詳細」に記載の出願資格審査に合格する必要がある。志願者は、所定の書類を「VI. 出願要領」に記載の通り、桂キャンパス A クラスター事務区教務掛（電気電子デジタル理工学専攻）に提出すること。

留学生のうち、京都大学工学部電気電子工学科出身者（卒業見込者を含む）以外は、志望研究室申告票で第一志望の研究室に事前連絡のうえ、指導希望教員に出願許可を得ることを必須とする。

IV. 学力検査日程

試験場は桂キャンパス A クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

(1) 修士課程教育プログラム（一般、留学生とも）

期 日	時 間	試験科目
8 月 1 日（土）	9:00～12:00	専門基礎 a
	13:30～16:00	専門基礎 b

(2) 博士課程前後期連携教育プログラム（5 年型：高度工学コースおよび融合工学コース）

(a) 出願資格審査

期 日	時 間	試験科目
5 月 29 日（金） ～ 6 月 3 日（水） のいずれか一日	9:00～18:00 における いずれかの時間帯（20 分）	口頭試問

* 志願者には口頭試問に関する場所・時間の詳細を 5 月 26 日（火）までに通知する。

* 審査結果を 6 月 8 日（月）までに通知する。合格者は入学願書を所定の期間に提出すること。
出願期間末日の 6 月 10 日（水）まで日数が少ないので注意すること。

* 京都大学工学部電気電子工学科を卒業見込み、あるいは卒業した者を対象とする。

(b) 面接

期 日	時 間	試験科目
8 月 2 日（日）	9:00～18:00 における いずれかの時間帯（約 10 分）	面接

V. 入学試験詳細

(1) 修士課程教育プログラム（一般・留学生）の試験詳細

英語：配点 120 点

筆記試験は行わず、TOEIC 等の成績で代用する。

提出方法については「VI.(1)(b) 英語成績証明書」を参照のこと。

提出がない場合は 0 点となる。

専門基礎 a：配点 400 点

以下の 5 題から 4 題選択して解答する。

数学 1、数学 2

微積分（一変数関数の微積分、多変数関数の微積分）、常微分方程式、線形代数（行列と連立一次方程式、ベクトル空間、行列の固有値と対角化）、複素関数論、フーリエ解析から 2 題。

電磁気学 1（静電界、静磁界、電磁誘導）

電気回路（交流回路、分布定数回路、過渡現象）

物性基礎（量子力学の基礎、統計力学の基礎、固体物理の基礎）

専門基礎 b：配点 300 点

以下の 4 題から 3 題選択して解答する。

電磁気学 2（荷電粒子の運動、マクスウェルの方程式と電磁波）

電子回路（アナログ電子回路の基礎）

自動制御（連続時間システムの古典制御理論）

半導体・固体電子工学（半導体、固体電子物性・デバイス）

(2) 博士課程前後期連携教育プログラムの試験詳細

(a) **出願資格審査**

志望する連携教育プログラム（5 年型）における研究計画に関する口頭試問を行い、学部の成績を考慮して審査を行う。説明用資料（パワーポイント等を用いてスライド 5 ページ以内、A4 用紙 5 枚以内に印刷できるもの）を用意し、持参したノート PC を用いて 8 分間で説明すること。その後 12 分間の試問が行われる。

(b) **面接**

研究の進捗状況などについて面接を行う。

(3) 有資格者決定法および志望区分への配属

(a) 修士課程教育プログラム

英語、専門基礎 a、専門基礎 b の成績により決定する（820 点満点）。総得点が 410 点以上の者を有資格者とする。有資格者から一般・留学生の試験区分ごとに総得点に応じて合格者を決定する。

筆記試験の注意事項

- ・試験中に使用できるのは、鉛筆、シャープペンシル（ボールペンは不可）、鉛筆削り（非電動式）、消しゴム、時計（時計機能のもの・スマートウォッチは不可）・眼鏡に限る。
- ・電卓、辞書、定規およびこれに類するものの使用は認めない。
- ・携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器類は、なるべく持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
- ・試験開始 30 分前までに指定された試験室前に集合すること。開始から 30 分経過以降は入室不可。

(b) 博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コースおよび融合工学コース）

出願資格審査および面接により決定する。志願者は、出願資格審査申込書を「VI.(2) 連携教育プログラム」に記載の受理期間中に提出し、出願資格審査を受けること。その際、指導予定教員の推薦（受入承諾書）と学部成績証明書の提出が必要である。指導予定教員と事前に十分面談を重ねること。受入承諾書のない出願資格審査申込書は受理しない。

出願資格審査に合格した志願者は工学研究科に出願手続きを行い、面接を受けること（志望区分への配属は内々定となる）。正式な合格通知は募集要項「Part A: V 合格者発表」記載の日時に行う。出願資格審査に合格しなかった受験者は、修士課程教育プログラムへ出願することができる。

VI. 出願要領

- ・下記の必要書類全てを「VI.(3) 別途書類提出先」へ送付または持参すること。
- ・様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。
- ・工学研究科に提出する出願書類の提出先・提出期間とは異なることに注意すること。
- ・郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」とすること（学内便不可）。

(1) 修士課程教育プログラム

(a) **出願承諾書**（様式 5）

- ・**6 月 10 日（水）16 時必着（厳守）**
- ・京都大学工学部電気電子工学科出身者（卒業見込者を含む）以外の留学生のみ提出が必要。

(b) 英語成績証明書

- ・7月17日(金)16時必着(厳守)
- ・英語成績証明書として以下のいずれかを提出すること。ただし、**本入学試験受験日当日(2026年8月1日)から過去2年以内に受験した証明書に限る**。英語を母国語とする受験者も提出が必要である。提出後の変更は認めない。提出された成績証明書は試験日に返却する。なお、受験資格等の問題でTOEIC等を受験することが困難な場合は、予め問い合わせること。

TOEICの成績証明書 (Test Report Form)

TOEIC Listening & Reading 公開テストのみ有効とする。団体試験であるTOEIC-IPは不可。公式認定証(Official Score Certificate)の原本のほか、デジタル公式認定証(Digital Official Score Certificate)を印刷したのも受け付ける。いずれの場合も、紙媒体で提出すること。

TOEFLの成績証明書 (Test Taker Score Report) (留学生のみ提出可)

TOEFL-iBTのみを有効とする。TOEFL iBT Home Edition および団体試験であるTOEFL-ITPは不可。なお、**Test Score**を利用し、MyBest™ Scoresは利用しない。成績証明書は、My TOEFL Homeを通じて提出すること。提出先のDIコードは「G147」である。

IELTSの成績証明書 (Test Report Form) の原本 (留学生のみ提出可)

Academic Moduleのみを有効とする。

(c) 志望研究室申告票(様式1)

- ・留学生:6月10日(水)16時必着(厳守)
- ・留学生以外:7月17日(金)16時必着(厳守) 他書類と同時に提出すること。
- ・志望順位を記入して提出すること。
- ・「IX. 教員・研究内容一覧」を参照のこと。

(2) 博士課程前後期連携教育プログラム

(a) 出願資格審査のための提出書類

受理期間:5月6日(水)から5月8日(金)16時(厳守)

- (i) 出願資格審査申込書(様式2)
- (ii) 受入承諾書(様式3)
- (iii) 研究計画説明書(様式4)
- (iv) 英語成績証明書

- ・「VI.(1)(b) 英語成績証明書」を参照
- ・5月27日(水)必着:万一、期日までに英語成績証明書の原本をできない場合は、Web上で閲覧できる成績をプリントアウトしたものを期日までに提出し、それと同一受験の成績証明書原本を、7月17日(金)16時まで提出すること。

(b) 志望研究室申告票(様式1)

- ・志望順位を記入して提出すること。
- ・「IX. 教員・研究内容一覧」を参照のこと。

(3) 別途書類提出先・問い合わせ先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学桂キャンパス A クラスター事務区教務掛(電気電子デジタル理工学)

電話:075-383-2077

Mail: 090kakyomudenki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

HP: <https://www.ee.t.kyoto-u.ac.jp/ja>

Ⅶ. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には3種類の教育プログラムが準備されている。本専攻の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (a) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（融合光・電子科学創成分野）
- (b) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（光・電子理工学）
- (c) 修士課程教育プログラム（電気電子デジタル理工学専攻）

詳細については「I. 試験区分・志望区分」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）および「Ⅷ. 教育プログラムの内容について」を参照すること。なお、**(a), (b)の連携教育プログラム志望にあたっては、志望区分の指導予定教員の承諾を得る必要**がある。その他不明なことがあれば、「Ⅵ. (3) 問い合わせ先」に連絡すること。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について

【融合工学コース（融合光・電子科学創成分野）】

21世紀においては全世界規模で情報処理量とエネルギー消費が爆発的に増大し、既存の材料・概念で構成されるハードウェアの性能限界と地球資源の枯渇が顕著になると予測されています。このような課題を解決し、光・電子科学分野で世界を先導するためには、電気工学、システム工学、電子工学、量子物性工学、材料科学、化学工学、光機能工学、集積システム工学、量子物理工学、デジタル工学など複数分野を融合して新しい学術分野を開拓し、かつ当該分野を牽引する若手研究者、高度技術者を育成することが重要です。

本教育プログラムでは、光・電子科学に関わる融合領域を開拓する教育研究を通じて、新しい学術分野における高い専門的知識・能力に加えて、既存の物理限界を超える概念・機能を創出する革新的創造性を備えた人材の育成を目指します。究極的な光子制御による新機能光学素子や高効率固体照明の実現、極限的な電子制御による耐環境素子や超集積システムの実現、光・スピン・イオンを用いた新機能素子や新規プロセスの開発、強相関電子系物質や分子ナノ物質の創成と物性制御、高密度エネルギーシステムの制御とその基礎理論、新しい物理現象を用いたナノレベル計測とその学理探求、高度なデジタル技術を活用した機能デバイスの設計などの融合分野において、常に世界を意識した教育研究を推進します。様々な分野で世界的に活躍する教員による基盤的および先端的な講義、各学生の目的に応じたテラーメイドのカリキュラムやインターンシップ等を活用した教育、光・電子理工学教育研究センターの協力を得て行う先端的融合研究を通じて、広い視野と高い独創性、国際性、自立性を涵養し、光・電子科学分野を牽引する人材を育成します。

【高度工学コース（光・電子理工学）】

現実世界と仮想世界が高度に融合した次世代の社会システムを実現するために必要となる、ハードウェアとソフトウェアの基礎から最先端研究レベルまでの学習とともに、デバイスからシステムまで発展する電気電子デジタル理工学分野のフロンティアにおける科学技術の修得を通して、広範な科学知識と豊かで弾力ある創造性を兼ね備えた人材を育成します。このプログラムの推進する教育及び研究は、光においては、任意の波長、強度、方向の、発光及び受光を可能にして光を自在にあやつり、電子においては、これまでの概念を超えるデバイスや量子効果などを通して、光と電子を極限まで制御することとその理解を目的とします。フォトリソグラフィやワイドギャップ半導体、分子ナノデバイスや量子凝縮系デバイスなどの新規材料・デバイス創成、パワーデバイス、電子・光・イオンによる革新的なナノプロセスなどに加えて、超伝導、電磁界解析、システム制御、データサイエンスなどの最先端応用である、低環境負荷なエネルギーシステムの構築、機械学習と高度に融合した生体センシングなど、世界でトップクラスの研究成果を挙げている分野で教育と研究を推進することにより、博士号取得の段階で、自立し、幅広い専門知識を有し、国際的に通用する一流の人材を育成します。

【修士課程教育プログラム】

本系専攻においては、電気・システム・生体工学、光・量子・電子理工学などの専門分野において、基礎学問の発展と深化を図るとともに、デジタル技術と相乗的融合により新たな学際フロンティアを創出する、高度な専門性と豊かな創造性を兼ね備えた人材の育成を目的とした教育と研究を行います。具体的には、自動制御、生体医学、超伝導現象の諸応用、電気電子回路、大規模シミュレーション、電波科学、超伝導材料、半導体機能材料、

有機ナノ電子物性、電子・光・スピン・量子状態の制御に関する教育と研究に加えて、データサイエンス、サイバーフィジカルシステム、グリーンテクノロジーに関する教育と研究を通じて、基盤から先端技術に至る体系的な知識を身につけ、工学技術開発の基本を体得することを目標とします。以上により、現実世界と仮想世界との融合に貢献し得る、柔軟かつ豊かな創造性と幅広い視点、そして先進的な志向を備えた高度情報専門人材を育成します。

IX. 教員・研究内容一覧

教員名	研究内容	区分
薄 教授 グエン 講師 持山 助教	<u>電気情報システム論研究室</u> (1) 非線形・多自由度システムの理論とデータ駆動型工学 (2) ソフトウェア工学による複雑システムの制御 (3) エネルギーシステム・モビリティシステムの解析・制御・設計 (4) 環境適応型ロボット歩行、ベストエフォート型モータドライブ	1
吉井 教授 伊藤 准教授 上田博 助教	<u>時空間センシング研究室</u> (1) マルチモーダル時空間信号処理(音響・画像・磁場等) (2) 物理拘束付き確率的生成モデル・深層学習 (3) 量子磁気センサによる生体磁気計測 (4) MRI を用いた脳機能イメージング	2
蛭原 教授†	<u>応用デジタル工学研究室</u> (1) 凸最適化手法を用いたダイナミカルシステムの解析と設計 (2) AI・ニューラルネットワークの信頼性保証 (3) 大規模離散計画問題の数値解法 (4) 先端制御理論の実システム応用	3
久門 教授†	<u>知的回路設計研究室</u> (1) 電磁現象を含む回路システム (2) 高速高周波回路のモデル化とシステム信頼性 (3) 機械学習を用いた回路設計 (4) パワーエレクトロニクス・インタラクティブ制御・電力システムの診断	4
浅野 教授† 吉田 助教	<u>物理情報融合工学研究室</u> (1) フォトニック結晶を用いた高ビーム品質・高輝度半導体レーザーの開発と応用 (2) フォトニック結晶レーザーの高機能化(ビーム偏向制御・短パルス化等)に関する研究 (3) 熱輻射制御による高効率光源およびエネルギー変換に関する研究 (4) 高 Q 値ナノ共振器と極微小光回路による自在な光子制御に関する研究 (5) ワイドギャップ半導体を用いた次世代フォトニック結晶の開発	5
船戸 教授† 石井 助教 松田 助教†	<u>光機能デバイス工学研究室</u> (1) 窒化物半導体を用いた可視・紫外域光源の開発に関する研究 (2) 半導体のナノ局在系光物性の解明と制御に関する研究 (3) 高い時間・空間分解能を有する分光マッピング技術に関する研究 (4) 任意の波長合成を可能とするテラレーメイド光源の開発と応用に関する研究	6
細江 准教授	<u>自動制御工学研究室</u> (1) デジタル制御系と周期時変系の解析と設計 (2) ロバスト制御系の解析と設計 (3) 確率的なダイナミクスをもつ系の解析と制御 (4) 機械系、空圧系に対する現代制御理論の応用に関する実験的研究	7

<p>阪本 教授</p>	<p><u>システム創成論研究室</u></p> <p>(1) システム理論の生体計測応用 (2) 波動イメージングと逆問題 (3) 生体システム信号処理 (4) 人体電波センシング</p>	<p>8</p>
<p>雨宮 教授 曾我部 准教授</p>	<p><u>超伝導工学研究室</u></p> <p>(1) 超伝導体の電磁現象 (2) 超伝導マグネットの電磁特性 (3) 超電導の医療応用 (4) 超電導のエネギー応用</p>	<p>9</p>
<p>松尾 教授 美舩 准教授 孔 助教</p>	<p><u>電磁エネルギー工学研究室</u></p> <p>(1) 電気電子機器に対するモデル縮約法の開発 (2) 磁性材料のマルチフィジクスモデリング (3) 電気電子機器最適設計手法の開発 (4) 高速高精度電磁界計算技術</p>	<p>10</p>
<p>海老原 教授 謝 講師 (生存圏研究所)</p>	<p><u>電波科学シミュレーション研究室</u></p> <p>(1) 計算機シミュレーションによる宇宙環境変動に関する研究 (2) 計算機シミュレーションを用いた非線形プラズマ波動現象の研究 (3) 宇宙－地球間の電磁氣的結合に関する研究</p>	<p>11</p>
<p>小嶋 教授 栗田 准教授 上田義 助教 (生存圏研究所)</p>	<p><u>宇宙電波工学研究室</u></p> <p>(1) 科学衛星観測による宇宙空間プラズマ環境の研究 (2) 科学衛星搭載観測機器の超小型化に関する研究 (3) 宇宙利用のためのナノバブル水特性に関する研究</p>	<p>12</p>
<p>篠原 教授 三谷 准教授 (生存圏研究所)</p>	<p><u>マイクロ波エネルギー伝送研究室</u></p> <p>(1) 宇宙太陽発電所 SPS に関する研究 (2) マイクロ波を用いた無線電力伝送に関する研究 (3) マイクロ波を用いた新材料創生に関する研究</p>	<p>13</p>
<p>中村 教授† 寺尾 准教授† (寄附講座)</p>	<p><u>優しい地球環境を実現する先端電気機器工学研究室</u></p> <p>(1) 回転機を中心とする先端的電気機器の研究 (2) 輸送機器に関する研究 (3) 再生可能エネルギーの利用技術に関する研究 (4) 超伝導機器に関する研究</p>	<p>14</p>
<p>米澤 教授 掛谷 准教授 池田 助教</p>	<p><u>極限電子機能工学研究室</u></p> <p>(1) 超伝導体や磁性体の新規物質応答・機能性の研究 (2) 新規物質機能性の次世代測定技術の開発 (3) 高温超電導体のジョセフソン効果とエレクトロニクス応用 (4) 巨視的量子状態のテラヘルツ時間領域分光</p>	<p>15</p>
<p>白石 教授 プエブラ 准教授 大島 准教授</p>	<p><u>固体量子物性工学研究室</u></p> <p>(1) 半導体量子スピントロニクスの研究 (2) 純スピン流物性物理の研究 (3) トポロジカル絶縁体/超伝導体・ワイル強磁性体等を用いた新奇な固体量子物性の研究 (4) 上記研究を基盤とした新機能デバイスや量子ハイブリッド系の創成と量子技術への発展</p>	<p>16</p>

竹内 教授 岡本 准教授 向井 助教	<u>光量子情報工学研究室</u> (1) 光量子コンピュータ・量子シミュレータや集積光量子回路の実現に関する研究 (2) 光量子情報等への応用にむけた、極微光デバイスの実現に関する研究 (3) 光子のさまざまな量子もつれ状態の生成と制御に関する研究 (4) 量子光を用いた、高感度・高分解能の新規光計測に関する研究	17
木本 教授 金子 准教授 三上 助教	<u>半導体物性工学研究室</u> (1) 低次元半導体ナノ構造の電子輸送とデバイス応用 (2) 抵抗変化不揮発性メモリの基礎研究 (3) ワイドギャップ半導体シリコンカーバイド (SiC) パワーデバイスと高温動作集積回路	18
小林 准教授	<u>電子材料物性工学研究室</u> (1) 走査型プローブ顕微鏡を用いた新規物性計測法の開発 (2) 電子材料のナノスケール構造・物性評価 (3) 有機薄膜デバイスの開発とその光・電子物性に関する研究 (4) バイオデバイス・センサの構築へ向けた生体分子の構造機能計測	19
デ ゾイサ メーナカ 教授 井上 准教授 (光・電子理工学 教育 研究 セン ター)	<u>ナノプロセス工学研究室</u> (1) ナノプロセス技術の深化に関する研究 (2) ナノ構造における電磁界シミュレーション (3) 新機能ナノフォトニックデバイスの開発 (4) ナノ構造を導入した新機能デバイスを用いた応用研究	20

†：特定教員